

福井大学学術協定校への派遣留学（交換留学）月例報告書（11月分）

留学先大学：Vytautas Magnus University

氏名：佐藤 誠

11月に入ると17時には完全に暗くなるほど日が沈むのが早くなり、晴れの日も徐々に少なくなってきます。基本的に学内の図書館は19時まで使用できるので、寮に帰ると集中できず課題の多い時は帰宅途中にあるカフェに立ち寄り、集中して作業できる時間を確保するようにしています。最近、新市街通りに杉原氏と同様にユダヤ難民に対してビザを発給したと知られるヤン・ツバルテンディクの功績を称える記念碑が作られました。メトロポリスというカウナス内のホテルにも杉原氏の記念碑があることは有名ですが、このように人道的な功績を知る機会が増え、過去の事実を広めていくことの大切さを感じながら杉原記念館でのPBLをやりきろうという気持ちになります。



【寮について】

私は現在、春学期と同様に **Baltija** と呼ばれる寮の3人部屋で生活しています。今学期から新しくアフガニスタン出身のルームメイトが増えました。一緒に生活する中で、最初の頃は文化や生活習慣の違いを感じる場面が多く、自分の主張を何度も繰り返して伝えることや相手の意見と折り合いをつけながら暮らしていかなければいけないこと、プライベートな時間があまりとれないことからストレスになることが多かったです。今では共同生活に慣れ、それらの文化の違いを楽しみながら過ごすようになりました。もちろん、アパートを共有して生活したり、他の寮へ移動したりと他の選択肢はありますが、1カ月の寮費が約100€（約12500円）という安価な寮費で満足していること、また東欧（ウクライナやベラルーシ）や中央アジア（カザフスタンやウズベキスタン）、中東地域（トルコやインド、パキスタン）、また東アジア（韓国、中国、台湾）からの留学生が多数で、西欧（スペインやイタリア、フランス）出身の留学生は少数で、日本ではあまり関わる事がなかった人達と知り合う機会が多いことがこの寮に住み続けている大きな理由になります。**Baltija** 寮では学期が始まってから1カ月経つとオンラインで部屋の変更を申請することができます。今期は空き部屋が少ないため、そのオンラインの申込できない場合が多いと聞きました。その時は、寮の担当者に相談すれば手続きを進められるようです。

交換留学の場合はこの **Baltija** 寮以外にも、今学期から **ASU**(VDUの提携大学)の寮に入寮する選択肢も増えたみたいです。**ASU**は寮費がVDUよりも安価ですが、実際に住んでいる学生の話によるとVDUにバスで通わなければいけないこと（片道約20分、本数少ない、中心市街から離れている）や住環境の状態があまりよくないという話をよく耳にすることがあるので、初め

にそこに入寮することになった学生は退寮する人が多いと聞きました。知り合いで VDU の留学生コーディネーターにその寮から Baltija に移動したいと相談したら、変更は可能だったようです。Baltija や ASU については VDU のウェブサイトに記載されていると思うので、よく確認することをお勧めします。また私の場合、留学前に Mentor と呼ばれる新しい留学生の生活をサポートしてくれる学生が連絡をくれて、Facebook の留学生のグループに入れてもらったので、ある程度住環境の情報を知ることができました。またそのグループ内でアパートの情報など頻繁に更新されているので、多くの選択肢が得られると思います。

加えて Solo Society と呼ばれる新しいドミトリータイプの施設ができたみたいで、実際に見学してきましたが、中心市街に近いことや私的是もちろん共有スペースともに質が高く、レセプションの方々もフレンドリーで好印象でした。もちろん質が高い分、家賃も Baltija より数倍になりますが、その分利点も多くある（無料のジムやイベント）と思います。最初の寮申請で選択肢は Baltija と ASU しかないと思いますが、それと一緒に Solo Society の部屋も申請しておくのも良い手段かと思います。しかし、Solo Society も人気があり空き部屋があまりないため、部屋の種類が限られている場合が多いので、学期が始まる前の数カ月前から予約することをお勧めします。Solo Society のウェブサイトのリンクを下記に記載しておきます。



Solo Society の
共有キッチンと
勉強スペース



【中間テスト期間】

10月下旬から11月上旬にかけて中間テストが行われます。中間テストの成績の割合は25%ほどで期末テストが50%を占める場合が多いです。普段よりもテスト期間の方が図書館は混んでいる様子はどこの大学も似ていると思いますが、1つだけ日本の大学と決定的に違うことがあります。それはテスト中の不正に対する意識の違いについてです。不正（カンニングなど）はしてはいけないという前提ですが、ある授業のテスト中に普通に隣の人と話しながら問題を解く学生がおり、その授業の教授も注意することなくテストが終了することがありました。もちろん厳しい教授もいることは確かですが、全体で見たときに不正をしたとしても少しの減点で済まされる場合、または見過ごす場合があるので、公正に試験を受けている側としては、不快な気持ちにならざるを得ません。その点に関しては日本の大学が厳しいのかと思うくらい、不正を軽い気持ちでできるくらいの緩い雰囲気があることは確かです。この試験時の緩さや意識の違いは日本人留学生同士でよく話題になります。もちろん担当教授によりますが、公正に成績をつけてほしいと強く思う人が不快になる雰囲気があることは間違いありません。テストの成績に満足できなかった

場合は担当教員に相談することができ（少なくとも私が履修した授業は可能でした）、生徒と教授の親しみやすさも魅力の1つではありますが、不正問題の扱いについては異なる事柄であってほしいものです。



リトアニアの知人の家でツェペリナイを作りました。独特の重い味にも慣れて、今では2つは余裕で完食できるくらいリトアニア料理が大好きになりました。

オスロへ

11月下旬の週末を利用してオスロへ行ってきました。LCCが充実しているので、格安で他国へ行けることはリトアニア留学の魅力の1つであると思います。北欧は2か国目になりますが、福祉政策が整っていることが街の様子から感じられますが、移民問題もホームレスの人の多さからも確認できました。ヨーロッパではクリスマスに向けてクリスマスマーケットと呼ばれるイベントが各地で開催されるので、見て回るのもお勧めです。日本の夏祭りの様子と似ていると思います。

